

特別講演 2

「循環器・呼吸器専門医が診る循環器疾患・慢性気管支炎への アプローチ ～生活習慣病と肺の生活習慣病の治療戦略～」

医療法人 H&L 会理事長

永谷 憲歳 先生

心不全、虚血性心疾患、不整脈や高血圧などの心血管疾患は COPD（慢性閉塞性肺疾患）を併存している割合が高かったと報告されております。

COPD の特徴である「徐々に生じる労作性の呼吸困難や慢性の咳・痰」はこれらの症状に乏しいこともあり、また COPD と心不全は息切れが共通の症状であります。

心血管疾患併存 COPD 患者または心血管疾患リスクのある COPD 患者は全 COPD 増悪・入院に至る増悪の後、30 日以内の心血管イベント発症リスクが高まった事がエビデンスにより報告されています。

心血管疾患を併存している COPD 患者の治療と管理においては両疾患に対するリスクの評価と適切な管理が重要であり、患者の生活の質と予後に大きな影響を与えることから COPD はかかりつけ医の先生方に注目して頂きたい疾患のひとつと考えています。

循環器・呼吸器専門医の立場から知って頂きたい COPD の診断・治療について最新のガイドラインや治療薬、実臨床での実験を踏まえて解説させていただきます。